1　国語

学校番号	１００９

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	国語総合	単位数	２	年次	１年前期
使用教科書	高等学校改訂版国語総合（第一学習社）						
副教材等	常用国語便覧（浜島書店）など						

1 担当者からのメッセージ

・基礎的な国語の力を身につけるとともに、コミュニケーション能力を身につけましょう。
・いろいろな作品を通して、国語の楽しさを伝えたいと思います。
・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、「話す・聞く能力」や、意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けてください。
・話し合いや文章記述、発表など、アクティブな活動を取り入れた授業を行います。
・古典の時間では、有名な古文と漢文の作品に親しむために、語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けてください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2 学習の到達目標

・目的や場にふさわしい語句を選んで、適切に思いや考えを表現することができる。
・目的や場に応じて的確に文章の内容や構成、登場人物の心情を理解することができる。
・人間関係において、互いを尊重し、相互理解を深め、正しく意思を伝え合うことができる。
・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができる。
・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する態度を育んでいる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙）	記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、半期ごとに５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期	評論	【近代以降】 教材: 「水の東西」 「文化としての科学」	○			◎	○	a:文章における筆者の考えの進め方や、場面の推移など、話の筋道を的確にとらえようとしている。 d: 文章における筆者の考えの進め方や、場面の推移など、話の筋道を的確にとらえようとしている。 e:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	小説	【近代以降】 教材: 「羅生門」 「夢十夜」	○			◎	○	a:人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付こうとしている。 d:人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。 e:文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d、e: 記述の確認及び定期考査
	言語活動	【近代以降】 〈羅生門」に基づいて、脚本を書く〉 教材: ワークシート、 原稿用紙	○	○	◎		○	a:物事の様子や場面などを、読み手が言葉を通して想像できるよう描こうとしている。 b:人が書いた脚本を聞くことで、場面をより深くイメージしようとしている。 c:物事の様子や場面などを、読み手が言葉を通してありありと想像できるよう描いている。 e:書くことに必要な、文の組立てについて理解している。	a、b、c、e: 記述の点検と確認及び分析
	古典入門	【古典】 教材:説話 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 『伊勢物語』 「筒井筒」 【漢文】 「訓読のきまり」 『戦国策』 「狐借虎威」 文法・句法…歴史的仮名遣い、文語の用言・返り点・置き字・再読文字	○			◎	○	a:文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。 d:文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 e:古典文学作品を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト及び定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力 c:書く能力 d:読む能力 e:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)に関わる観点には◎を付している。